資料　4

異字同訓の漢字の使い分け例

※　以下，「異字同訓の漢字の使い分け例」を「使い分け例」という。

＜前書き＞

１　この使い分け例は，常用漢字表に掲げられた訓のうち，同訓で意味の近い語が複数の漢字で書かれる場合，その使い分けの大体を簡単な説明と用例で示したものである。

２　異字同訓の漢字の使い分けに関しては，明確に使い分けを示すことが難しいところがあること，また，使い分けに関わる個人差もあることなどから，ここに示す使い分けは一つの参考として提示するものである。

３　常用漢字表に掲げられた複数の同訓字の使い分けの大体を示すものであるから，例えば，常用漢字表にある「預かる」と，常用漢字表にない「与（あずか）る」とのような，同訓の関係にあっても，一方が常用漢字表にない訓である場合は取り上げていない。
　また，例えば，「かたよる」という語の場合に，「偏る」と表記するか，「片寄る」と表記するかなど，同語の異表記についても取り上げていない。

＜使い分け例の示し方及び見方＞

１　この使い分け例は，常用漢字表に掲げる同訓字のうち，１３６項目について示した。それぞれの項目は五十音順に並べてある。

２　項目の見出しに複数の訓が並ぶ場合は，例えば「あがる・あげる」「そなえる・そなわる」のように，五十音順に並べてある。

３　それぞれの項目ごとに，簡単な説明と用例を示すことで，使い分けの大体を示した。簡単な説明には，主としてその語の語義を挙げてある。また，そこで示した語義と用例とがおおむね対応するように，それぞれの順序を考慮して配列してある。例えば，項目「あてる」のうち，「当てる」は，

> 【当てる】触れる。的中する。期待する。
> 　　胸に手を当てる。ボールを当てる。くじを当てる。当てが外れる。

と示してある。この例では，「触れる」の用例として「胸に手を当てる。」，「的中する」の用例として「ボールを当てる。くじを当てる。」，「期待する」の用例として「当てが外れる。」がそれぞれ対応している。全ての項目の語義と用例は，そのような考え方に基づいて並べてある。
　なお，この使い分け例では，同訓字の使い分けの大体を示すことが目的であるので，語義の示し方やその取上げ方についても，当該の目的に資する限りにおいて語義を便宜的に示すものである。

4　使い分けを示すのに，対義語を挙げることが有効である場合には，

のぼる　　【上る】(⇔下る)。　　【昇る】(⇔降りる・沈む)。

というように，「⇔」を用いてその対義語を示した。

5　必要に応じて使い分けの参考となる補足説明を示した。当該の補足説明が何に対する補足説明であるのかを明示するために，対象となる部分には「*」を付した。

補足説明には，

*　「勧める」と「薦める」の使い分けについては，動作性のある行為に対して，その行為をするように働き掛けたり，促したりする場合に「勧める」を用い，ある人物や物事がそれにふさわしい，望ましいとして推薦する場合に「薦める」を用いる。
*　「校長をはじめ，教職員一同…」などという場合の「はじめ」については，漢字を当てるのであれば，その意味から考えて「初」よりも「始」がふさわしいと考えられるが，仮名で書かれることも多い。

というように，使い分けのポイントになる情報や，一般の表記実態に基づく情報などを必要に応じて示した。上記の「はじめ」の例のように，常用漢字表にある訓であっても，漢字より仮名で書く方が一般的である場合などについても補足説明として示した。

6　各項目の用例の中には，

小鳥が木の枝に止（留）まる。　　末永（長）く契る。

というように，括弧を付して示したものがある。これは，括弧外の漢字に代えて括弧内の漢字を用いても差し支えないという意味で付したものである。